

東芝深谷

[第36号]

OB会会報

OB会事務局

048-572-2863 梶山 實 宅

ホームページ <http://www.lets-happy.net/toshibaob/>

新年のご挨拶



会長・梶山 實

明けましておめでとうございます。本年も相変わりになくOB会活動にご支援をお願い申し上げます。

令和2年に始まった新型コロナウイルスが2年に亘り蔓延し、政府の緊急事態宣言等の外出制限や2回のコロナワクチン接種や3蜜・手洗い・マスクで感染防止が図られてきました。

その結果、OB会員が感染したという話は聞きませんが、人の集まる事業や人が密集する同好会を含めて殆ど中止となりました。

OB会の対応は、このような時期こそ、色々な情報をタイムリーに発信すること。行事ができない令和3年度はOB会費を徴収しない等を決めて活動を行って来ました。

令和3年3月深谷事業所の閉鎖発表の後、早速、会員が植えた「記念樹のお別れ会」を申し入れて、最小限の人数ですが実施しました。

この内容は既配布の「近況報告」冊子に掲載しました。

また、東芝ライフ7月号に事業所閉鎖の記事が4頁に亘り掲載されました。内容は東芝側の許可を得て、この会報に付けましたのでご覧下さい。

コロナ禍で人が動かずオンラインで仕事をする「テレワーク」や学生達の「オンライン学習」が進んで来ました。OB会も有志でZOOMオンライン懇親会(通称:テレノミ会)を実施してみました。

テーマにOB会の今後の活動、東芝3分割の行方、健康維持等の話題で盛り上がっています。

今回の会報は従来と趣を変えて、OB会員が地域や我々の励ましになる様な活動をされている方々に記事をお願いしました。

今後は同好会の近況と交互に会報の掲載を考えております。

令和4年の総会を5月21日(土)に計画しております。コロナが収まって、楽しい懇親会が出来ることを期待しています。

末尾になりましたが皆様の幸せと健康を祈念しております。

OB会最高齢

滝脇 馨



大正生まれの夫婦が共に98才になりました。妻は1日の大半を寝て過ごしていますが私は未だ元気で様々な事に興味を持ち続けている。

私の健康の源は自分でもよく判らないのですが、第1には「酒を止めた事」です。今でも冷蔵庫に酒があるのに、飲む気がしません。

第2には「歩く習慣を付けた事」です。毎朝、食後に老人クラブの広間で2千歩を歩いています。今後も継続したいと思っています。

以上、私の体力維持の方法ですが、年を取ると体力の衰えだけでなく頭の「ボケ」の心配が出てきます。

脳の機能は使わなければ衰えます。そこで毎月1回は何かのテーマを探し、A4版で4〜6頁位にまとめた物を書いていきます。

例えば、第二書函トンネル構想です。こうした物をまとめる為には、10倍以上の資料を必要とすることも多く、手間がかかりますが、頭の体操のつもりで、これからも頑張ろうと思っています。

長年の自治会活動について

常盤町東部自治会



浅見 幹男

私が自治会活動に携わってから19年となります。深谷市全体で200の自治会があり、それらの自治会を覗いてきましたが、千差万別で、20数軒の自治会から1300軒の自治会まであり、それぞれに様々な問題を抱えながら、役員さん達は頑張っています。

常盤町自治会は900軒を超える深谷市で3番目の大きな自治会であり、9年前に東・西2つの自治会に分割しました。納涼祭・餅つき大会は今でも仲良く協力し、合同開催しています。

自治会活動は役員・班長だけで活動している訳でなく、寿会・民生児童委員・社会福祉協議会・青少年健全育成会・子供会・学校・安全協会・婦人会・農業委員会・公民館等各種団体と力を合わせて活動しています。

多くの先輩達や良き理解者達が天国で見守って下さる中、この2年間はコロナ禍で多くの行事ができず会員の皆様には、辛抱をして頂き申し訳なく思っています。

時代は変わっても、他人のため、と郷土社会のため、国家と世界のために尽くす、奉仕の精神は必要ではないでしょうか。

3年間の学童保育活動について



堀米 信三

学童保育室とは、保護者が昼間、働いていて家庭にいない小学児童に、放課後適切な遊びの場と生活の場を与えて、児童の健全な育成を図る施設です。

私が当初勤務した市立の学童保育室が、数ヶ月で社会福祉法人かつみ会に移管され、次の3つの学童保育室に移動しました。

1番目は「本」学童保育室です。

先生方のまとまりが良く、学童への指導も良い施設です。

特に、学習時間は静かに宿題をします。終わった子は本読みをして過ごします。室長によると、ここまでに数年掛ったとの事。

2番目は「豊」学童保育室です。

1ヶ月間の応援の予定が、1年間勤務する事になりました。騒がしい教室の立直し中で、学習時間は小学校退職の先生が中心となり改善されました。私は自由時間の遊びの幅を広げようと将棋・五目並べ・卓球等を教えました。殆どの子は静かに過せる様になりました。

3番目は「上」学童保育室です。

新しく建屋を増築し120名を受入れていて、とにかく騒がしい、学童崩壊の様な状態。大幅な人事異動が実施され、小学校退職の先生及び男性の先生を増し、教室も低学年と高学年に別け、学習時間は静かになりました。

私は1・2年生を受け持ち、自由時間の過ごし方を改善しようと将棋・五目並べ・折紙、などを追加して教えた。遊びの幅が広がり子供達は静かに過ごせる様になりました。

渋沢栄一記念館に勤務して



菅原 政昭

現在、渋沢栄一記念館で月7日程度勤務し、他に尾高惇忠生家でボランティアガイドや周辺の史蹟巡りガイドなどしながら充実したセカンドライフを楽しんでいます。

新1万円札の顔であり、大河ドラマの主人公である渋沢栄一人気で連日多くのお客様が見えています。

7年前に尾高惇忠生家のボランティアでスタートし、その後記念館に勤務した時にはまさかこんな賑わいが来るなんて予想もしていなかったことです。

定年後間もなく生きがい大学に入り、多くの仲間と出会い、中山道や日光街道歩きなどで多くの発見をしました。先人が大切に守り現在に伝えてきた史蹟の数々にとても興奮したことを覚えています。

「自分も何かできるのではないか」。こんな気持ちから、地元にも伝えるべき史蹟などがあることに気づき、尾高惇忠生家ボランティア

養成講座に参加したことが今につながっています。

コロナの影響がやや落ち着きを見せているとはいえ収束したわけではありませんので、満足な対応が出来ずお客様には大変申し訳なく思いますが、見学することは可能ですので機会を見てぜひ足を運んでいただけたらと思います。

公民館長 8年目について



桜庭 豊

退職後、本庄市の公募公民館長に採用となってから8年目を迎えました。車で5分も掛からない本庄市東公民館が勤務先です。

公民館は社会教育法の下に戦後の人心の荒廃の立て直しのために作り出され、「つつと・まなぶ・むすぶ」が端的に表す活動です。

その内容は、①館長主催講座の立案企画・運営②定期的な活動登録利用団体や非定期の約40団体への貸館業務③館の維持・管理で新型コロナウイルス感染防止対策も主たる

業務です。

①は、子供から高齢者までを対象に年間約20講座を企画・運営しています。昨年度はコロナ禍で2ヶ月間の臨時休業となり、高齢者のサルコペニアやフレイル進行が危惧されました。電話作戦で声掛けし、毎週実施している介護予防の体操教室「はにぽんお口の健康体操&筋力アップ体操」と「椅子に座ってゆったり太極拳体操」の両教室の再開とワクチン接種予約支援を行い、笑顔や元氣を取り戻しています。

また、認知症予防として、今年から始めた3ヶ月毎開催の「脳トレ石膏人形絵付け&健康に良い話シリーズ」は白地の石膏人形（アマビエ、千支の寅、はにぽん等）に各自がデザインし絵具で絵付け後、品評会（批判はなし、褒めるのみ）も満席の人気講座となりました。

市内初のリモート型産後ママピラティス講座や英語系の内容など多彩な講座があります。

コロナ禍で多くのイベントが中止となりましたが、来年度は明るく展開できることを期待していきます。

高齢者マラソンランナー



吉橋 玉一

私は走る事は苦手でしたが、50歳前後でゴルフが後半に崩れるようになり、足腰の衰えが原因かと思い、対策に走り始めました。

スローペースながら数年走り続けて効果を感じ始めた頃に、「本庄早稲田の杜マラソン大会」に誘われ初めて6kmに参加し、ゴールでできた時の爽快感と完走後のビールの美味しさを味わった事がマラソンに惹かれるきっかけとなりました。

その後、各地の大会に参加する内に島の大会があることを知り、海無し埼玉生まれの私にとって海は憧れで好きな旅行もできるので、島の大会は一挙両得な思いで増々マラソンに嵌り、北から南まで色々な島を走っています。島の大会は本当に楽しいです。

月刊誌ランナーズで全国公認コースのフルマラソン記録を1歳刻みの年齢別100位迄を公表しています。

私が70歳の時、70位になった事が大きなモチベーションとなり高齢者マラソンを継続しています。

最高位は46位になりました。私は元々速くないので、制限時間の緩い島の大会に主に参加しています。

また、変わった所ではモンゴルの草原マラソンに5回参加しました。

今はコロナ禍で殆どの大会が中止ですが、再開されたら、フルマラソンをとの思いで健康管理の一環として最低1時間・7kmを毎日走る様に心掛けています。

結果、週10万歩、150kmを目標に日々行動しています。その他は鈍感力、ケセラセラで目指すはOB会長寿者番付の横綱です。

（写真はモンゴルでの優勝表彰）



イなどの画像表示装置、リチウムイオン二次電池などの電子部品を生産してきました。

その後、時代や市場の変化に伴う事業の終息や構造改革などを経て、近年まで東芝グループのティ・ディ・ピー(株) (TDPI) が

航空機用ブラウン管の製造を継続していましたが、(TDPI) の事業が本年3月末に終息したことを受け、56年の歴史に幕を閉じることとなりました。

* 2011年7月に深谷工場から深谷事業所に改称

深谷事業所の概要 (2021年3月時点)

所在地 : 埼玉県深谷市幡羅町

一丁目9番2号

事業所長: 上條 勉

設立: 1965年4月

敷地面積: 約29万㎡



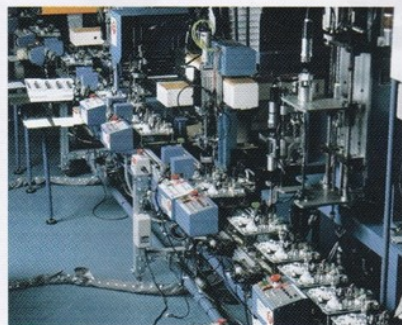
液晶表示デバイスの基板組み合わせ



VTR組立調整ライン

1994

★ 液晶ディスプレイ生産開始



VTRメカデッキ自動組立ライン

1999

★ 大型低温ポリシリコン液晶生産開始

2000

★ 液晶ディスプレイ生産累計100万台達成

● アドバンス・リチウムイオン二次電池生産開始

■ BSデジタルハイビジョンテレビ・チューナー生産開始

2002

◆ CDT国内生産終了

2005

■ 業界初のハードディスクドライブ(HDD)内蔵液晶テレビ生産開始

2009

■ 世界初高画質液晶テレビ「CELLレグザ」生産開始

2004

● アドバンス・リチウムイオン二次電池生産終了

■ プラズマテレビ生産開始

2011

■ 液晶テレビ国内生産終了



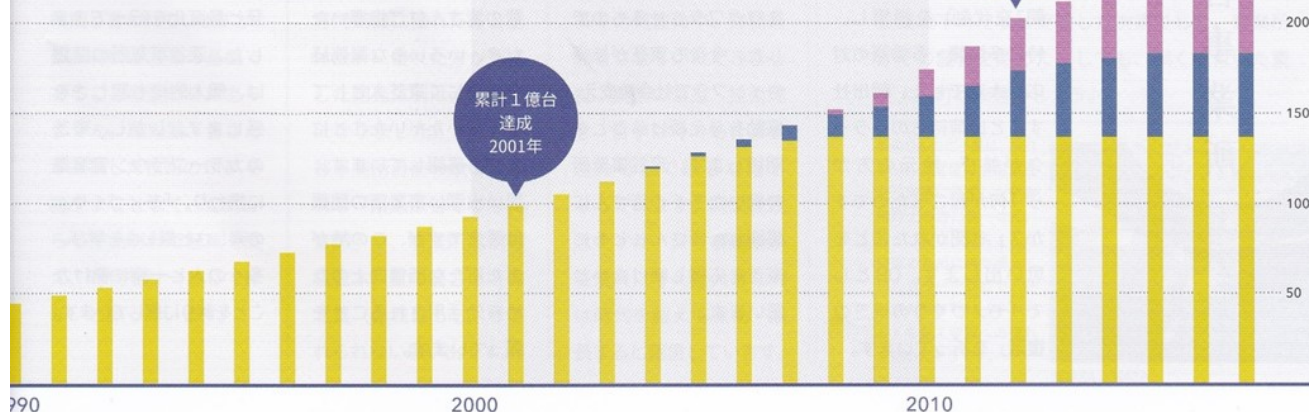
2021
閉鎖予定



2011年5月31日レグザ最終出荷式

累計2億台達成
2012年

累計1億台達成
2001年



世界の“今”を映し続けた 深谷事業所 操業終了

1965年から埼玉県深谷市でテレビやブラウン管、液晶ディスプレイなどの事業を営んできた深谷事業所が、本年9月末で閉鎖されることになりました。ここでは、その歴史をゆかりのある皆さんとともに振り返ります。

深 谷事業所*の始まりは、1965年に日本初のカラーテレビ専門工場として誕生した深谷工場です。

1969年には同じ敷地内でブラウン管工場の操業を開始しました。以来、深谷事業所では、当社の映像および電子デバイス事業の中核拠点として、テレビやビデオテープレコーダ（VTR）をはじめとした映像製品や、ブラウン管、液晶ディスプレ

深谷事業所56年の歩み

- テレビ
- ◆ ブラウン管
- ▶ ビデオ
- ★ 液晶ディスプレイ
- 電池
- その他
(ニューメディア、カーエレクトロニクスなど)



工場予定地



1971年土光社長（当時）視察

1965
■ 深谷工場設立
■ 白黒テレビ・カラーテレビ
生産開始

1969
◆ 深谷ブラウン管
工場設立

1977
■ カラーテレビ
生産累計
1,000万台達成

1978
▶ ベータ方式VTR生産開始
(3カ月で生産中止)
◆ カラーブラウン管
生産累計1,000万本達成

1979
▶ ビデオプロジェクター
生産開始



テレビ製造ライン（1968年頃）

1981
▶ ビデオプレーヤー
生産開始
◆ カラーディスプレイ管
(CDT) 生産開始

1987
● 車載ディス
プレイ生産開始

1988
■ 液晶テレビ
生産開始

1983
▶ ベータ方式
VTR生産再開

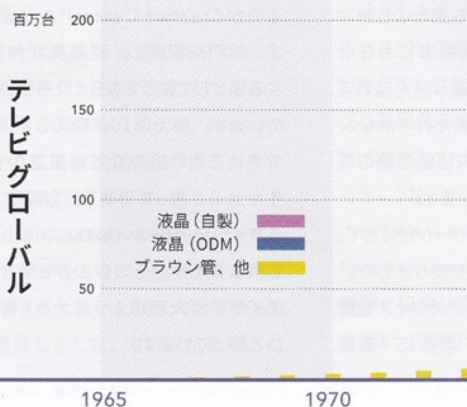
1984
■ 世界初のBS受信システム
生産開始
▶ ビデオカメラ、
VHS方式VTR生産開始

1989
■ 大型テレビシリーズ
「バズーカ」第1弾
生産開始
▶ VTR生産累計
1,000万台達成



カラーブラウン管組立ライン

累積生産台数



この線を山折りにして右ページと合わせて見て下さい→

~2010

~2021

時代は、デジタルや モバイルへ

1994年、液晶ディスプレイ事業が本格スタートし、深谷は世界初の大型低温ポリシリコン液晶量産工場として発展。薄型・軽量という特長を生かし、パソコンや携帯電話などのモバイル機器分野へも進出しました。また、東芝は、1992年からリチウムイオン二次電池事業を行っており、2000年には、モバイル機器向けの需要増を見込み、アドバンスト・リチウムイオン二次電池の量産を開始しました。テレビはデジタル放送普及期を迎え、2006年から「レグザ」ブランド製品を市場投入。2009年には高性能プロセッサを搭載した革新的な液晶テレビ「CELLレグザ」を商品化しました。

新たな東芝グループ への一歩として

2011、2012年にテレビはグローバルで年間生産約1,500万台の最高記録を更新しました。2014年に東芝ライフスタイル(株) (TLSC) が設立され、当時テレビ・映像機器事業は、家電機器事業とともに (TLSC) 傘下にありましたが、中国・美的集団股份有限公司 (美的集団) グループへの (TLSC) 株式譲渡に伴い、2016年6月末、東芝映像ソリューション(株) (TVS) を設立し、事業を移管・集約。そして2018年2月末、東芝が保有していた (TVS) の発行済み株式の95%を中国・ハイセンスグループへ譲渡し、事実上東芝グループのテレビ・映像機器事業は区切りを迎えました。

執行役 上席常務
深谷事業所長
上條 勉さん
Tsutomu Kamijo



56年間培ったDNAを 継承していきます

かつて「新三種の神器」と言われたカラーテレビの日本初専門工場として、1965年に操業を開始した深谷事業所が2021年9月末で閉鎖することになりました。この間、深谷事業所を中核としていち早くグローバル展開を加速させ、累計2億3千万台のテレビを全世界に送り出し、人々のライフスタイルを大きく変革させてきました。

56年間のモノづくりに終止符を打つことは誠に残念ですが、深谷事業所で培ったDNAを受け継ぎ、東芝のモノづくりを発展させ、東芝グループは今後、「インフラサービスカンパニー」として成長していきます。



ブラウン管事業 OB
(TOSC)
2019年退職
西村 孝司さん
Takashi Nishimura

ブラウン管事業全盛期に入社し、深谷事業所で25年間勤務、電子デバイスの開発など一貫して部品材料事業に携わりました。現在はソリューションがけん引する時代の転換期と言われていますが、部品材料が産業の基盤であることに変わりはありません。諸先輩、皆さんが蓄積した技術のDNAを絶やすことなく、これからも部品材料で産業を支え、時代をリードしてほしいと願っています。



ブラウン管事業 現役
(本校) [LS推]
高橋 健さん
Ken Takahashi

深谷事業所には、学卒新人として配属され、ディスプレイやLED照明部品、電解水生成装置の開発を担当しながら、19年間お世話になりました。個々の技術だけでなく、専門知識に優れた方と全体設計に優れた方が連携した開発体制は大変勉強になりました。また、深谷事業所自前の歌で知られる「東芝深谷そんな音頭」や、事業所北側の桜並木、夏の暑さと冬の北風 (赤城おろし) も忘れられない思い出です。



液晶ディスプレイ事業 OB
関ジャパンディスプレイ 上席本部長
(生産・品質保証管理)
山澤 俊治さん
Shunji Yamazawa

約10年間、深谷事業所で液晶関係の製造・生産技術を担当しました。低温ポリシリコン液晶の立ち上げ、新棟建設、PCから携帯電話事業への転換、2009年の構造改革など、多くの荒波の中、実務経験をさせていただきました。東芝の製造・技術理念、哲学は今でも仕事を進める上で重要な糧となっています。閉鎖は残念ですが、深谷事業所が従業員に与えた大事な魂は時代を超えて進化・成長すると確信しています。

東芝の姫路太子工場でブラウン管の製造を担当されていた野口幹夫さんから深谷事業所の思い出を寄稿していただきました。

東芝 総合企画部
1987年 退職
野口 幹夫さん
Mikio Noguchi



深谷事業所には度々伺って、交流しておりました。当時の思い出はたくさんありますが、印象深い出来事は、2012年に東芝深谷OB会第22回総会で「宇宙への道」と題した講演をしたことです。満席の会場を見て、自分にとっては仲間とお客様の違いがあったテレビ部門とブラウン管部門合同のOB会に驚きました。これだけ大勢の人々がここ深谷市周辺に在住され、まさに企業城下町だと実感した次第でした。事業所がその歴史を閉じたとしても、深く根付いた東芝人の町は永遠でしょう。

幹夫さんのご息子は、2021年5月、3度目の宇宙滞在から無事に帰還した宇宙飛行士の野口聡一さん。聡一さんは、幹夫さんが研究のために持ち帰っていたカラーテレビで、SF特撮人形劇「サンダーバード」を見て宇宙への憧れを抱いたそうです。



©JAXA/NASA

~1980

~1990

日本経済の
発展とともに
ひも解く

深谷事業所 モノづくり の変遷



カラーテレビ普及を 支えた「東洋一」の工場

1964年の東京オリンピックを契機にカラーテレビの本格的な普及期を迎えた1965年、日本初のカラーテレビ専門工場として、深谷工場は操業を開始しました。1969年には、急速に伸長するカラーブラウン管需要に対応するため、深谷工場の隣地に新工場が建設されました。当時、深谷工場はカラーテレビの一貫生産工場として、その規模と設備において「東洋一」と謳われ、高度成長期には自動車、クーラーと並ぶ「新三種の神器」であったカラーテレビの普及を支えました。

メディア・放送の 発展を担う

1983年以降、VTRの製造が本格的に始まり、小向、富士、深谷の3工場で行っていたVTR生産およびVTRやニューメディアの技術部門、営業部門が深谷に集結、東芝の映像拠点として製・販・技一体の体制が整えられました。1984年には日本放送協会（NHK）による衛星放送（BS）の試験放送実施を受けて、世界初のBS受信システムの生産を開始。その後、衛星通信（CS）受信機器の生産も加速しました。また、カラーテレビの大型化が進み、ハイビジョンテレビ「バズーカ」シリーズが好評を博しました。

ゆかりの
ある皆さんが
振り返る

私と深谷事業所



テレビ事業 OB

第20代（2008年～2011年）
深谷工場長（映像事業）

宮寺 常夫さん
Tsuneo Miyadera

私の思い出は、「アナログ放送停止＆エコポイント制度（2009年～2011年）」による液晶テレビの大増産です。関係会社からの派遣も含め475人で増産体制（時には24時間2交代制）を構築し、特に多国籍・多言語の対応は大変でした。朝出社すると出荷待ちのトラックが並び、地元の方から「何が起ったのですか？」と聞かれたことを思い出します。OBとして「モノづくりの東芝の復活」を祈っています。



テレビ事業 OB

第8代（2010年～2013年）
（労組）委員長

相坂 恒夫さん
Tsuneo Aisaka

深谷事業所は56年前にテレビ製造工場として稼働を開始し、以降、多くの人たちがテレビやビデオなどの映像製品の生産に携わりました。これらの製品は、当時、人々の心をワクワクさせるものでした。今後も東芝が技術やインフラで社会を支え、感動を与え続けることを期待します。深谷事業所で働いた多くの皆さんに感謝し、皆さんとともに東芝を応援し続けたいと思います。



テレビ事業 現役

（生推）[生戦]

工藤 浩行さん
Hiroyuki Kudo

深谷事業所では26年間、映像関係の業務に従事しました。東芝生活の約3分の2が深谷事業所でしたので、現在では深谷が私の生活基盤を支える場所にもなりました。諸先輩の皆さんにご指導いただき、いろいろな業務経験を通じて東芝人として育てていただいたことにとても感謝しています。思い出深い事業所の閉鎖は残念ですが、この地がまた新たな価値向上のため有効活用されることを願っています。



ブラウン管事業 OB

第20代（2004年6月～9月）
深谷工場長（電子管事業）

張替 誠さん
Makoto Harigae

深谷ブラウン管工場は、カラーブラウン管の中核工場として長年その役割を担ってきました。本部技術部が駐在して、工場技術部・製造部と協力し、世界最先端製品の開発と量産化を行ってきました。深谷事業所の閉鎖は、個人的にも寂しさを感じます。しかし、東芝のカラーブラウン管事業に携わり、「モノづくり」の楽しさと厳しさを学び、多くの人と一緒に働けたことを誇りに感じています。

私の長年の趣味



松原 由幸

改めて「趣味は何ですか」と聞かれると、はて何かな？と考えさせられます。趣味とはどの程度にはまっている状態を言うのか定義が無いからです。私の場合は興味有るものの食い散らかして、自慢出来るものが殆どありません。強いて言えば小学校の5年生で始まったラジオアマチュア無線の世界でしょうか。高校になって無線仲間と知り合い、電池式の真空管1本で熊谷↓行田の交信に成功したことは生涯忘れがたい楽しい思い出であります。

当時の仲間も高齢や病気で次々他界してゆきますが、私は細く長く頑張っております。

ライセンス上、今発信出来る電波は7・21MHzですが、特に7MHzは北海道から沖縄まで全国各地と交信できます。

出張で行った懐かしい地名や2回目となる交信は顔が見えなくても大変楽しいです。

今嵌まっているのは「ホビードロイン」です。日光連山、赤城山、榛名、妙義、冠雪の浅間山を背景に、自分の言う通りに動かないカミさんや息子と違って思う存分コントロール通り飛んでくれます。

仲間も5人に増えました。全員がなんと同じ高校の電気科。地域の空の顔役も居ます。

極楽浄土が近くなり、「環境アセスメントをやろう！」と言うのが会員の合言葉です。

事務局からのお願いです

- [1] 地域で活躍の皆さんをご紹介下さい。自薦、他薦を問いません。次回の総会葉書でご連絡下さい。
- [2] 通信費のご援助をお願いします。ご家庭で眠っている未使用葉書や切手、書き損じの葉書などを寄付頂けると助かります。総会時や地域担当にお預けください。
- [3] 配布資料の「送り状」廃止です。経費削減や封筒帳合の削減です。

東芝深谷事業所の解体状況



令和3年12月28日の状況（高崎線陸橋より撮影）です。正門と北門を結ぶ西門方面は108号建屋残して殆ど解体されました。（画面のテレビ側は#102の解体残骸です）

令和3年3月31日、航空機用ブラウン管の生産が完了し、東芝深谷事業所の解体が6月より始まりしました。コロナ禍で少人数ながら「記念樹のお別れ」を6月に実施しました。令和3年12月末状況ではテレビ製品建屋関係の殆どが解体されました。（写真）

令和4年の主な行事予定

*グラウンド・ゴルフ大会

予定日 3月17日（木）

詳細は同封の「グラウンド・ゴルフ大会開催のお知らせ」を参照ください。

*東芝深谷OB会総会

予定日 5月21日（土）

4月、開催案内を送付します。

令和3年中にご逝去された方々

三井 敏英 様 令和3年2月
真下 節子 様 令和3年2月
大塚 偉夫 様 令和3年3月
三森 通安 様 令和3年5月
大西 純一 様 令和3年9月
「冥福をお祈りいたします（合掌）」

編集後記

昨年も新型コロナウイルスの影響で自粛の一年でしたが、徐々に活動を再開しています。本会報も多くの方々にご協力を賜り発行出来ました事を厚く感謝します。

（編集）広報担当：林 正孝